



## 2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年7月31日

上場会社名 プリマハム株式会社

上場取引所 東

コード番号 2281

URL https://www.primaham.co.jp/

代表者(役職名)代表取締役社長 社長執行役員

(氏名)千葉 尚登

問合せ先責任者(役職名)専務執行役員

(氏名)内山 高弘 (TEL)03 (6386) 1800

四半期報告書提出予定日 2023年8月9日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	109,283	4.6	3,607	5.9	3,915	7.3	2,218	△1.1
2023年3月期第1四半期	104,451	△0.2	3,405	△29.1	3,650	△27.9	2,242	△24.6

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 3,702百万円(35.5%) 2023年3月期第1四半期 2,732百万円(△12.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	44.15	-
2023年3月期第1四半期	44.62	-

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	235,838	124,624	48.4
2023年3月期	229,887	123,194	49.2

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 114,260百万円 2023年3月期 113,169百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	20.00	-	45.00	65.00
2024年3月期	-	-	-	-	-
2024年3月期(予想)	-	20.00	-	45.00	65.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	231,900	9.5	5,600	2.3	5,800	△0.5	3,500	△5.1	69.65
通期	470,300	9.2	11,500	18.3	12,000	14.2	7,600	68.7	151.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 ー社(社名)ー、除外 ー社(社名)ー
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期1Q	50,524,399株	2023年3月期	50,524,399株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	273,464株	2023年3月期	273,366株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期1Q	50,250,984株	2023年3月期1Q	50,249,695株

(注) 期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式数には、株式給付信託(BBT)が保有する当社株式を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	11
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症に分類されるなどの影響もあり、国内消費者の行動心理が活性化し、外食需要やインバウンドを含めた観光需要等が大幅に回復、百貨店やコンビニエンスストア等の流通業も堅調に売上を伸ばしており、回復傾向で推移しております。

一方、原材料価格や、エネルギーコストは高値が継続、円安の再度の進行、労働コストの高まり等、製造コストの上昇が続いております。このため前期に引き続き今期も様々な業種において値上げが複数回実施されており、食品全体の値上げ品目数は前期を上回る見通しです。このような状況を受け、ベースアップ等で賃金水準は上昇に向かってはいるものの、物価上昇率に比べれば十分とは言えず、生活防衛意識の高まりから、消費拡大に直結するとは言い難い市場環境となっています。

当業界におきましても、上記の製造コストの上昇に加えて、現地原材料相場高、飼料価格高、円安水準の継続、疾病問題等の畜肉市場が大きく変動する要因が多く、厳しい事業環境が継続しております。

このような状況の中、当社グループは「目指す姿」である「おいしさと感動で、食文化と社会に貢献」という基本的な考えのもと、中期経営計画目標の達成に向けて、「ESGへの取り組みと持続可能な経営基盤の強化」と「外部環境の変化に対応した収益基盤の構築」及び「成長投資とグローバル展開」を基本方針と位置づけ、諸施策を講じてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高1,092億83百万円（前年同期比4.6%増）、営業利益36億7百万円（前年同期比5.9%増）、経常利益39億15百万円（前年同期比7.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益22億18百万円（前年同期比1.1%減）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

#### <加工食品事業部門>

2023年4月に昨年に引き続き3回目のハム・ソーセージ商品及び加工食品の価格改定を行い、販売先への納品価格の引き上げを実施いたしました。業界全体では市販用商品市場の販売額が前年を下回る厳しい環境が継続しておりますが、当社市販用のシェアは昨年度に引き続き上昇いたしました。しかしながら製造コストの上昇を補いきれず、損益面では前年を下回る結果となりました。

##### ① ハム・ソーセージ部門

主力ブランドの「香薫<sup>®</sup>あらびきポークウインナー」は、定番の2個束商品に加え、大袋ジッパー付き商品の販売も引き続き好調に推移しました。販売促進政策では、東京ディズニーリゾート<sup>®</sup>ご招待キャンペーンやSNSを活用したキャンペーン等を継続的に実施し、今期も販売シェア拡大を継続することができました。新たに建て替えた鹿児島工場が、今春より本格的に稼働を開始し、安定した商品の提供に寄与しております。結果、市販用商品、業務用商品とも売上高及び販売数量は前年を上回り、順調に推移いたしました。しかしながら、損益面では値上げの浸透以上に原材料のコストが上昇し、前年を下回る結果となりました。

##### ② 加工食品部門

加工食品部門では、常温商品の「ストックディッシュ」、手軽に食べられる「サラダチキンバー」等の市販用商品が消費者から評価を得ており、順調に拡販を進めることができました。また、業務用商品においては、市場の回復や価格改定の効果により売上高を拡大できましたが、原材料等の仕入れコストの大幅な上昇を補いきれず、利益面では前年同期を下回る結果となりました。

コンビニエンスストア向けのベンダー事業についても、原材料高騰や、燃料高、人件費アップなど製造コストが上昇しましたが、お客様の要望に応えた新商品開発により、売上高、利益面とも前期を上回ることができました。

結果、加工食品事業部門における売上高771億11百万円（前年同期比5.0%増）となり、セグメント利益33億47

百万円（前年同期比10.1%減）となりました。

<食肉事業部門>

海外の畜肉相場高や穀物相場の高止まり、円安による輸入仕入コストの上昇等、食肉事業の仕入環境は厳しい状況が継続しています。販売先の店頭価格は、原料肉の相場上昇を補うまでの十分な価格上昇には至らないものの、段階的に販売先への価格転嫁を進めるとともに、相場と連動した取引への変更も徐々に浸透し、昨年を上回る売上高、利益を確保できました。国産の豚肉相場は高水準で推移しているものの、飼料価格高が継続している為、養豚事業も収益的には厳しい環境ですが、宮城新農場の肥育は予定通り順調に進み、夏場以降出荷を開始する見通しであり、良質な豚肉を適正な価格で販売拡大できるよう、様々な取り組みを進めていく所存です。

結果、食肉事業部門における売上高320億44百万円（前年同期比3.7%増）となり、セグメント利益3億円（前年同期はセグメント損失1億77百万円）となりました。

<その他>

その他事業（理化学機器の開発・製造・販売等）の売上高1億27百万円（前年同期比0.3%増）となり、セグメント利益58百万円（前年同期比3.7%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

<資産>

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ59億50百万円増加し、2,358億38百万円となりました。これは主に、棚卸資産が59億36百万円、投資有価証券が16億40百万円、無形固定資産が15億83百万円、現金及び預金が13億90百万円、受取手形及び売掛金が10億68百万円増加し、預け金が59億98百万円減少したことによるものです。

<負債>

負債については、前連結会計年度末に比べ45億21百万円増加し、1,112億13百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が73億45百万円増加し、長期借入金（1年以内返済予定含む）が9億75百万円、未払法人税等が7億98百万円、賞与引当金が6億1百万円減少したことによるものです。

<純資産>

純資産については、前連結会計年度末に比べ14億29百万円増加し、1,246億24百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金8億66百万円、為替換算調整勘定が3億13百万円増加したことによるものです。

○キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて57億27百万円の減少（前年同期は47億79百万円の減少）し83億70百万円となりました。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動によるキャッシュ・フローは56億88百万円のネット入金（前年同期は18億89百万円のネット入金）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益37億77百万円、減価償却費26億98百万円、売上債権10億44百万円の増加、棚卸資産59億16百万円の増加、仕入債務73億21百万円の増加、法人税等の支払20億3百万円です。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動によるキャッシュ・フローは81億93百万円のネット支払（前年同期は28億10百万円のネット支払）となりました。主な要因は、生産設備更新、生産性向上及び品質安定を目的とした有形固定資産の取得による支出52億76百万円、基幹システム構築を目的とした無形固定資産の取得による支出17億31百万円です。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動によるキャッシュ・フローは32億82百万円のネット支払（前年同期は21億81百万円のネット支払）とな

りました。主な要因は、配当金の支払21億90百万円、長期借入金の返済による支出9億75百万円です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想につきましては、2023年5月8日付公表の「2023年3月期決算短信」に記載の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,861	12,251
受取手形及び売掛金	46,471	47,539
商品及び製品	18,994	24,138
仕掛品	4,498	4,828
原材料及び貯蔵品	3,479	3,942
預け金	7,041	1,043
その他	3,966	3,719
貸倒引当金	△2	△4
流動資産合計	95,311	97,459
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	53,979	56,388
土地	19,923	20,010
その他（純額）	28,407	25,714
有形固定資産合計	102,309	102,113
無形固定資産		
のれん	1,506	1,488
その他	5,802	7,403
無形固定資産合計	7,308	8,891
投資その他の資産		
投資有価証券	6,154	7,794
退職給付に係る資産	12,891	13,017
その他	5,969	6,624
貸倒引当金	△57	△62
投資その他の資産合計	24,957	27,373
固定資産合計	134,576	138,379
資産合計	229,887	235,838

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	49,287	56,632
短期借入金	323	348
1年内返済予定の長期借入金	3,774	3,655
未払法人税等	2,160	1,361
賞与引当金	1,637	1,036
その他	17,683	16,800
流動負債合計	74,867	79,835
固定負債		
長期借入金	19,783	18,927
役員株式給付引当金	92	95
退職給付に係る負債	4,714	4,772
資産除去債務	406	407
その他	6,828	7,174
固定負債合計	31,825	31,378
負債合計	106,692	111,213
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,908	7,908
資本剰余金	10,198	10,198
利益剰余金	86,324	86,284
自己株式	△405	△405
株主資本合計	104,025	103,985
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,302	3,169
繰延ヘッジ損益	△4	27
土地再評価差額金	4,546	4,539
為替換算調整勘定	1,215	1,528
退職給付に係る調整累計額	1,084	1,010
その他の包括利益累計額合計	9,143	10,274
非支配株主持分	10,024	10,364
純資産合計	123,194	124,624
負債純資産合計	229,887	235,838



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	104,451	109,283
売上原価	91,517	96,391
売上総利益	12,934	12,892
販売費及び一般管理費	9,528	9,284
営業利益	3,405	3,607
営業外収益		
受取利息及び配当金	54	66
持分法による投資利益	8	25
補助金収入	101	97
その他	144	206
営業外収益合計	308	396
営業外費用		
支払利息	32	40
棚卸資産廃棄損	23	23
その他	7	24
営業外費用合計	63	88
経常利益	3,650	3,915
特別利益		
固定資産売却益	1	1
その他	0	-
特別利益合計	1	1
特別損失		
固定資産売却損	2	6
固定資産除却損	33	116
その他	1	17
特別損失合計	36	139
税金等調整前四半期純利益	3,615	3,777
法人税等	1,218	1,215
四半期純利益	2,396	2,561
非支配株主に帰属する四半期純利益	154	343
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,242	2,218

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	2,396	2,561
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△39	869
繰延ヘッジ損益	0	31
為替換算調整勘定	469	305
退職給付に係る調整額	△94	△74
持分法適用会社に対する持分相当額	0	7
その他の包括利益合計	335	1,140
四半期包括利益	2,732	3,702
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,584	3,355
非支配株主に係る四半期包括利益	148	346

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,615	3,777
減価償却費	2,573	2,698
減損損失	-	13
のれん償却額	81	41
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	6
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△586	△603
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	16	47
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△271	△228
役員株式給付引当金の増減額 (△は減少)	3	3
受取利息及び受取配当金	△54	△66
支払利息	32	40
持分法による投資損益 (△は益)	△8	△25
有形固定資産売却損益 (△は益)	1	4
投資有価証券評価損益 (△は益)	-	3
有形固定資産除却損	33	116
売上債権の増減額 (△は増加)	△437	△1,044
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△845	△307
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△5,464	△5,916
仕入債務の増減額 (△は減少)	3,173	7,321
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	694	1,133
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△66	623
長期未払金の増減額 (△は減少)	△6	0
その他	△58	20
小計	2,425	7,660
利息及び配当金の受取額	66	71
利息の支払額	△33	△40
法人税等の支払額	△569	△2,003
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,889	5,688
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
預け金の増減額 (△は増加)	5,000	-
有形固定資産の取得による支出	△7,673	△5,276
有形固定資産の売却による収入	10	917
無形固定資産の取得による支出	△120	△1,731
投資有価証券の取得による支出	△4	△304
投資有価証券の売却による収入	-	0
貸付けによる支出	-	△5
貸付金の回収による収入	0	0
敷金の差入による支出	△7	△6
敷金の回収による収入	86	10
定期預金の増減額 (△は増加)	38	△974
長期前払費用の取得による支出	△20	△780
その他	△120	△43
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,810	△8,193
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	151	12
リース債務の返済による支出	△159	△121
長期借入れによる収入	1,000	-
長期借入金の返済による支出	△978	△975

配当金の支払額	△2,187	△2,190
非支配株主への配当金の支払額	△7	△7
自己株式の取得による支出	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,181	△3,282
現金及び現金同等物に係る換算差額	21	59
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△3,081	△5,727
現金及び現金同等物の期首残高	16,230	14,098
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,149	8,370

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

項目	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(セグメント情報等)

1 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)3
	加工食品 事業部門	食肉事業 部門	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	73,410	30,914	104,324	127	104,451	—	104,451
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	6,080	6,083	13	6,096	△6,096	—
計	73,413	36,994	110,407	141	110,548	△6,096	104,451
セグメント利益又はセグメント 損失(△)	3,721	△177	3,544	60	3,604	△198	3,405

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、理化学機器の開発・製造・販売等を含んでおります。

2 セグメント利益又はセグメント損失の調整額△198百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△199百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(2) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

2 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	加工食品 事業部門	食肉事業 部門	計				
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	77,111	32,044	109,155	127	109,283	—	109,283
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	5,512	5,515	13	5,528	△5,528	—
計	77,114	37,556	114,670	141	114,812	△5,528	109,283
セグメント利益又はセグメント 損失(△)	3,347	300	3,647	58	3,705	△98	3,607

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、理化学機器の開発・製造・販売等を含んでおります。

2 セグメント利益又はセグメント損失の調整額△98百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△98百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(2) 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。